

## 平成29年度 第1回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 30 年 2 月 19 日(月) 12:00~14:30
2. 開催場所 : 株式会社スーパーネットワーク 会議室 (東京都港区赤坂 4-8-14)
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 6 名  
出席委員の氏名 : 野田慶人委員長、天城鞆彦委員、関沢英彦委員、瀬戸純一委員、中浩正委員、米村恵子委員  
欠席委員の氏名 : 酒井順子委員

放送事業者側出席者氏名 :

<株式会社東北新社メディアサービス>  
上高原亮 ゼネラルマネージャー

<株式会社スーパーネットワーク> (Super! drama TV HD)  
宮内昭代表取締役社長、西尾敏常務取締役、加藤響子副部長、森田雄一郎次長、泉直樹、坪井幸一郎

4. 審議対象チャンネル : Super! drama TV HD

5. 議題 : 番組審議

<審議対象番組>

「ブラックリスト リデンプション(吹替版)」第1話 ※2017年12月放送開始

「MURDER IN THE FIRST/第1級殺人 シーズン1 (字幕版)」第1話 ※2017年11月放送開始

6. 審議内容

<「ブラックリスト リデンプション(吹替版)」第1話 について>

- ・現代が設定のはずなのに近未来的な非現実的ストーリー展開についていけない。3人の女性出演者の設定にも無理がある。2話3話と見続けると癖になるのかもしれないが。
- ・本編の「ブラックリスト」と差別化するためだろうかハイテクを全面に出したストーリーに現実感がなく、漫画的。スピンアウト展開する程の内容ではないのではないか。主人公のトムは好青年ではあるが力強さに欠け魅力を感じなかった。
- ・荒唐無稽のストーリー展開で、スピーディな映像にも驚いたが見終わると少々疲れた。
- ・様々の伏線が貼られているがストーリーとして活かされていなく感じた。
- ・若い視聴者は主人公のトムに共感を得られるのかもしれないが迫力があるタイプでないので、入りこめなかった。本編の「ブラックリスト」にもマイナスの影響がでるのでは。

<「MURDER IN THE FIRST／第1級殺人 シーズン1（字幕版）」第1話について>

- ・登場人物の設定が日本のドラマのようなヒューマン的でテンポもおっとりしており、タイトルの割にはおとなしいストーリー展開でわかりやすい。今後に期待が持てる。
- ・警察もののドラマはキャラクターによって面白さが決まるが主人公の男女に華がないのが残念。
- ・現代社会の抱える問題を詰め込み過ぎの感はあるが展開のスピードも程よく2話以降も視聴したいと思った。
- ・多くの伏線は張り巡らせ、現代社会の問題も見事に詰め込んで非常にわかりやすく楽しめた。映像ワークも素晴らしく巧みであった。
- ・北欧や英国のドラマのようなオーソドックなストーリー展開が良い。出演者の視線の交差によって組み立てられた構成が物語に深みを持たせている。
- ・主人公の2人のキャラクターに特徴はないが、表と裏の2面の伏線が効果的で楽しめた。

<事業者回答>

今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上

## 平成29年度 第2回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 30 年 3 月 19 日(月) 14:00~15:00
2. 開催場所 : 株式会社東北新社 会議室 (東京都港区赤坂 4-8-10)
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 7 名  
出席委員の氏名 : 芥川麻実子委員長、中町綾子委員、岩佐陽一委員、武内智雄委員、中嶋貞治委員、  
添田弘幸委員、岩本昭治委員  
欠席委員の氏名 : なし

放送事業者側出席者氏名 :

<株式会社東北新社メディアサービス>  
上高原亮 ゼネラルマネージャー

<株式会社ファミリー劇場> (ファミリー劇場 HD)  
服部洋之代表取締役社長、松崎航、初田典子、郷野洋行

4. 審議対象チャンネル : ファミリー劇場 HD
5. 議題 : 番組審議  
<審議対象番組>  
「究極のヒーローは誰だ~新スポーツエンタメ KuroOvi~スタート特番 誕生編」  
「究極のヒーローは誰だ~新スポーツエンタメ KuroOvi~スタート特番 挑戦編」

### 6. 審議内容

- ・スポーツエンタメの進化系でいい番組。出演者について、有名人ばかりでなく一般人も参加していてバラエティに富んでいるところがよい。
- ・地上波でも似たような内容のものがあるが、この番組は楽しめた。簡単なクイズを随所に入れ、意外性があったのが一つの要因。壊滅都市からの人命救助という設定も、感情移入がしやすかった。
- ・凝った仕掛けと参加者のキャラクターが楽しめた。
- ・世界から手練れを集め、金をかけた設備を使い、CS 放送のオリジナル番組としては出来が良い。
- ・ファミリー劇場の編成という見地から、このようなスポーツバラエティが入ると全体のバランスが取れてよい。
- ・放送だけでなく YOUTUBE や dTV での展開はよいこと。さらにメディアを広げられるのではないか。
- ・挑戦者のパーソナルな情報をもう少し詳しく告知してもよかったのでは。

- ・コースの特徴をもう少し詳しく説明して欲しかった。
- ・男女が同じコースを挑戦していたが、女性にはやや不利だと感じた。
- ・華やかさが足りず、無機質な感じを抱いた。挑戦者のユニフォームを統一するなど、工夫が必要。
- ・新しい撮影技術を駆使して斬新な映像も見たかった。
- ・この番組を今後どうマネタイズするか。番組で使用した施設を開放して町おこしに使う、海外に番組を売る、などいろんな可能性を考えるとよい。

<事業者回答>

今後の番組作りの参考にさせていただく。

以上

## 平成29年度 第3回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 30 年 3 月 23 日(金) 14:00~15:30
2. 開催場所 : 株式会社東北新社 会議室 (東京都港区赤坂 4-8-10)
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 6 名  
出席委員の氏名 : 小池保委員長、渡辺祥子委員、横山宗嘉委員、渡辺純一委員、藤森益弘委員、  
二瓶紀六委員  
欠席委員の氏名 : 谷口恭子委員  
  
放送事業者側出席者氏名 :  
<株式会社東北新社メディアサービス>  
上高原亮 ゼネラルマネージャー  
  
<株式会社ザ・シネマ> (ザ・シネマ)  
三上義之代表取締役社長、額健太郎営業部長、吉森健陽副部長、福寿亮、藤原良
4. 審議対象チャンネル : ザ・シネマ
5. 議題 : 番組審議  
<審議対象番組>  
「ふきカエ ゴールデン・エイジ」
6. 審議内容
  - ・アイデアが良く、面白かった。『エクスペンダブルズ』の俳優陣と同じように、吹き替え版も、日本の声優界のベテランが揃っているということで、役者と声優が似ており、声優たちも悪いオジサンに見えるのが面白かった。ただ、あれが何にでも通用するかというわけではないだろう。今後も継続できるかどうかかわからないが、『ハリー・ポッター』や『ワイルド・スピード』で同じように吹き替えの人を集めても作れるかもしれない。司会も上手かった。
  - ・レジェンド級の声優さんに集まっていたが、普通は放送では声優さんの名前は出さないで、一般的には声優の名前は知られていないと思う。あの番組を見て、声と顔を初めて知ったと喜んでくれる人がいるのであれば、先行き見通し明るい。
  - ・ちょっと喋りと喋りの間が空いた瞬間に下に吹き出しが入るのは、効果的だった。そういった何かしらの細工は役に立つということを実感した。
  - ・吹き替えと字幕どちらが良いのか、改めて考える材料としてもこの番組は良かった。吹き替えは嫌いなのでほとんど見ないが、一回見比べてみようと思わせてくれる番組だった。
  - ・吹き替えについて知らないことや、誰に向けて作っているのかが判らなかつたため、見るのが苦痛だった。出演者も誰に向かって話しているのか意識していないため、単なる芸談で終わってしまっている。

- ・制作意図なしに、司会の人が言っていた通りにエピソードや裏話をただ出し合っただけで終わってしまった。期待を裏切られた。とりわけ最悪だったのが、あの声優たち自身が「実は僕は字幕派」「私も」「私も」という展開があったこと。あそこは、編集で落とすべき内容ではないのか。
- ・今回の番組はあくまで『エクスペンダブルズ』を知っている人に向けて作った番組で、それが共通のベース。そこに立って見ると、面白い人は面白い。立っていない人を見ると、単なる芸談で全く面白くないということになる。
- ・ザ・シネマとして何故こういう企画をしたかという、吹き替えをチャンネルの1つのフックにしていこう、という思いがあったからではないのか。そういう点では、後々に引き継いでいくような財産があまりない中身だった。

<事業者回答>

- ・ザ・シネマの視聴者なら、この番組に出演している声優さん達がレジェンド級だと分かっている人が多いはず。他チャンネルは、どちらかというと歌ったりコンサートをやったりという「アイドル声優」に目をつけているが、当社は、これまで70年代、80年代の吹き替え黄金時代のテープを発掘し、そのような吹き替え版映画を放送してきた。ザ・シネマにはそれを見たいという視聴者が集まっている。この番組は自信を持って放送したものであり、視聴者からは概ね高評価をいただいた。

以上